



2011年4月14日

会社名 飯野海運株式会社
代表者 代表取締役社長 関根知之
(コード番号 9119 東・大・福)
問合せ先 総務企画グループリーダー 當舎裕己
(TEL 03-5408-0360)

中期経営計画「IEG14」策定のお知らせ
- 成長と進化 -
lino's Evolutionary Growth Plan to 2014

当社グループは、海運事業での新たなる成長と不動産事業での収益基盤の強化を目指し、3ヵ年の中期経営計画「IEG14」(2011年4月～2014年3月)を策定いたしました。

2007年度からの中期経営計画「ISG12」(lino's Strategic Growth Plan to 2012)では、永続的成長企業を目指した取り組みを行いました。不動産事業においては非常に厳しい市況の中での飯野ビル建替えとなりましたが、本年秋開業を前にオフィス賃貸部分については全フロアの入居テナントが内定しました。一方海運事業においては、当社主力のケミカル船事業では市況の低迷が続いており、ドライバルク市況では豪州での洪水及び東日本大震災の影響で混乱が続いております。

このような状況の中、リーマンショック前の2007年に策定された計画「ISG12」では、実効性の観点から現在の事業環境にそぐわない点も多くなりましたので、同計画期間満了を待たず、新たに中期経営計画を策定することといたしました。

新中期経営計画では、特に当社グループの海運事業の更なる成長を目指した構造改革を行い、海運事業と不動産事業を両輪とした経営の一層の質的強化を図ります。

3つの柱

1. ケミカル船事業の構造改革 (中東航路の収益性向上、新基幹航路の育成、Joint Ventureを通じた集荷力向上、組織力の強化、不経済船の減船、船腹調達の多様化)
2. 不動産事業を含めた安定収益基盤の強化 (飯野ビル開業、専用船事業の拡充)
3. 新興国需要を取り込んだ中小型船の事業展開 (ドライバルク船事業、中小型ガス船事業)

5つの土台

1. 市況変動に対する耐性強化 (市況・為替・事業コスト等外部変動要因 全社リスクマネジメント)
2. 財務基盤の強化 (有利子負債の圧縮、資金調達の多様化)
3. 質的転換 (技術力・組織力・マーケティング力の強化と人材育成)
4. 安全の徹底 (船舶運航、ビル管理)
5. 環境負荷低減への取り組み (船舶、ビル)

lino's Evolutionary Growth Plan to 2014



設備の状況・予想運航規模・稼働棟数

(参考)

| | | 2007年度末 | ~ ISG12 ~ | 2010年度末 | ~ IEG14 ~ | 2013年度末 | Next Stage | 2010年代央 |
|------------------|-----------------------|---------|---|---------|--|---------|--------------------------------------|---------|
| 海 運 事 業 | オイルタンカー | 11隻 | | 8隻 | | 8隻+ | 200年企業へ 向けての、 企業価値向上 への取り組み | 8隻+ |
| | ケミカルタンカー | 37隻 | ・ケミカルタンカー 中東地域での 規模拡大 | 39隻 | ・ケミカルタンカー 構造改革・世界 全域へ航路拡大 | 45隻前後 | | 50隻前後 |
| | LNG船 | 13隻 | | 13隻 | | 13隻+ | | 13隻+ |
| | LPG船 (石化ガス船含 む) | 36隻 | ・内航/近海ガス イイ/ガストランス ポート(株)での運航 開始 | 31隻 | ・ガス・ドライ 中小型船での 新興国需要を 取り込んだ 事業展開 | 35隻+ | | 40隻+ |
| | ドライバルク船 | 15隻 | | 17隻 | | 22隻前後 | | 25隻前後 |
| 不動産事業 | | 6棟 | 飯野ビル建替え | 5棟 | 飯野ビル 営業開始 | 6棟 | | 6棟+ |

2010年代央に営業利益100億円の収益力確保を念頭に置き、ケミカル船の事業規模は50隻、ドライバルク船は25隻程度の営業・管理体制とし、また収益の安定している不動産事業及び専用船事業の強化を目指した体制整備を行います。海運業での事業規模拡大は、積荷確保を重視した中、短期用船により拡充を図ります。

なお、2011年度にケミカル船事業の構造改革に伴う自社船の一部売却、資産の入替え等を検討しております。

数値目標・方針

(単位: 億円)

(参考)

| | 2010年度(注1) | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2010年代央 |
|---------------|------------|--------|--------|--------|---------|
| 売上高 | 730 | 760 | 830 | 860 | 1,000 |
| 営業利益 | 22 | 20 | 54 | 62 | 100 |
| 経常利益 | 8 | 2 | 32 | 40 | 80 |
| 当期利益 | 6 | 2 | 20 | 38 | 60 |
| 自己資本 | | 527 | 541 | 569 | 650~ |
| 有利子負債 | | 1,404 | 1,441 | 1,352 | 1,270以下 |
| Net D/E ratio | | 2.49 | 2.46 | 2.19 | 1.8以下 |
| 営業CF | | 85 | 131 | 142 | |
| 投資CF | | 410 | 145 | 50 | |

(注1) 2010年度損益予想は、2011年1月31日付第3四半期決算開示における連結業績予想数値です。

配当について

2010年度の期末配当及び2011年度の配当は未定です。

2012年度以降は8~10円を基準とした安定的な配当体制の確立を目指します。

市況前提

| 為替 | 円/US\$ | | 85 | 85 | 85 |
|------------|----------|------|--------|--------|--------|
| バンカー | US\$/MT | | 600 | 600 | 600 |
| Panamax | US\$/Day | (注2) | 18,000 | 20,000 | 20,000 |
| SmallHandy | US\$/Day | (注2) | 13,000 | 14,000 | 14,000 |

(注2) Panamax・Small Handyの市況前提は、太平洋ラウンドを想定しております。

本資料で記述されている業績予想及び将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

以上